

受験番号	
------	--

平成30年度

精道三川台中学校 第1回入学試験

作文問題

注意

- 1 「始め」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 解答用紙の中にはさんであります。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、受験番号を問題冊子および解答用紙の受験番号らんに入力してください。
- 4 「やめ」の合図で、筆記用具を置きなさい。
- 5 試験終了後は、問題冊子および解答用紙を机の上に置いたまま指示があるまで待ちなさい。
- 6 検査時間は**45分**です。

次の文章を読んで、あとの問題一、二に答えなさい。

人と人のつながりをもつとも身近に実感するのに重要なのは、コミュニケーションです。コミュニケーションを辞書でひくと、〈社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする〉と定義されています。このような意味でのコミュニケーションは、みなさんが幼少の時から、親子関係をはじめ、さまざまなかたちで経験していることでしょう。しかしここで私がとくにとりあげたいのは、身内以外の他者と意思疎通するためのコミュニケーションです。

みなさんは、「自分」と「身内以外の他者」の関係をどう考えているでしょうか。身内以外の他者は、まったくの「赤の他人」にすぎないと考えているのではないのでしょうか。けれども、和辻哲郎（一八八九―一九六〇年）という日本を代表する思想家が強調したように、そもそも人間という言葉は、それが人と人との「間柄的な存在」であることを示しています。赤の他人であつても、社会生活を送るうえでは他者との意思疎通をはかるために、公共的なコミュニケーションは不可欠です。

たとえば、学校のクラスメートとは、友人以外であつてもなんらかのコミュニケーションをとらざるをえないでしょう。また、道を歩いているとき、自分の不注意で知らない人にぶつかつたとしたら、その人に謝るのが当然でしょう。とりわけ、人間には誤解がつきものです。誤解が誤解を生んで互いに敵対しあうということは、大人の世界でも頻繁にみられます。そういう場合に誤解を正すことは、コミュニケーションの重要な役割です。

誤解を正すために腹藏なく話し合うコミュニケーションがうまくいかない場合、「疑心暗鬼」に陥ることもあります。それは、疑う心があると、暗闇でいるはずのない鬼がみえてしまうように、一旦ある人に不信感をいだいてしまうと、その人の何気ない言動でもいろいろに勘ぐってしまうような状態があります。実際に人間社会で、そうした疑念が高じて喧嘩にまで、極端な場合には殺傷事件にまで発展することがまれではありません。

けれども、あきらかに誤解が原因の疑心暗鬼は、コミュニケーションによって解消するよう努めなければなりません。さもないと、一人ひとりを活かすような社会など生まれるべくもないでしょう。みなさんも、「何だあいつ（あの人）は」で始まり、「あいつ（あのひと）はいつも自分のことを悪く思っている」と

いうパターンに進むような疑心暗鬼に陥ることがあるかもしれません。そのようなときは、自分の勝手な思い込みや間違つた噂の鵜呑みなどがないか、もういちど考えてみてください。そして心を閉ざさず、つねに相手とのコミュニケーションの可能性を開いて、解決していくように心がけてほしいと思います。

（山脇直司『社会とどうかわるか——公共哲学からのヒント』やまわきなおし

（注）媒介：両方の間に立って橋渡しをするもの

間柄的な存在：自分も他人も孤立した存在であることを自覚した上で、集団としての社会に関わっている存在

腹藏：心の中に包み隠すこと

勘ぐる：あれこれと氣を回して、悪くとらえる

高じて：程度がはなはだしくなつて

鵜呑み：人の言うことなどを十分に考えることなく、ありのままに受け入れること

問題一 筆者は「コミュニケーションの役割」とはどのようなものであると考えていますか。九十字以上

百十字以内で解答用紙に書きなさい。

【注意】

- 一、題名や名前は書かないでください。
- 二、原稿用紙の一行目から書き始めてください。
- 三、段落に分けないで書いてください。

問題二 この文章を読んで、あなたが考えたり感じたりしたことを、問題一で書いた内容と関連させながら、四百五十文字以上五百文字以内で解答用紙に書きなさい。

【注意】

- 一、題名や名前は書かないでください。
- 二、原稿用紙の一行目から書き始めてください。
- 三、必要に応じて、段落に分けて書いてください。

【問一解答例】

社会生活を送るうえで、他者と意思疎通をはかるために不可欠なものであり、誤解が原因で生まれた他人への不信感や疑念、自分の勝手な思い込みや間違った噂を解消し、一人ひとりを活かすような社会にするもの。(九十七文字)

【問二解答例】

コミュニケーションをとっていれば誤解が解消していたことを思い出しました。

ある日、A君のキーホルダーがなくなり、B君が盗んだと言う子がいたので、私も勝手にそう思いこんでいました。その後、学級活動の時間に、学級委員長のC君がA君のキーホルダーがなくなったことについて知っている人はいるのかをみんなにたずねたとき、クラスのみんなは、ちらちらとB君のことを見ていました。

そのとき、先生は冷静に、B君がA君のキーホルダーを盗んだところを見た人がいるのかをたずねましたが、クラスで見た子はだれもいませんでした。

さらに先生は、A君のキーホルダーは廊下に落ちていて、他のクラスの子が先生に持って来てくれたとおっしゃいました。私はそれを聞いてショックを受け、また、B君と話をせず、一方的にB君を犯人だと思い込んでいたことを後悔しました。

私はこの経験を通して、うわさ話を信じたり、自分勝手な思い込みで誰かを疑ったりしてはいけないということを学び、それからは誤解が起らないように、クラスメートの一人ひとりと積極的にコミュニケーションをとっていくようになりました。(四七五字)